園長のひとりごと

７月を「過ごしやすい夏」と思ったのも束の間、猛暑を通り越した「酷暑」に襲われた日本全国でした。旭川でも、お盆直前頃から気温の上昇が始まり、８月下旬では連日３３度越えとなり、小学校なども酷暑の為午後から休校になる等異例な事態となりました。最近では冬季間の低温による１時間遅れや休校なども珍しくなる中、まさか夏の暑さのための臨時休校とは思いもよりませんでした。

夏の暑さに対する対策ですから、エアコンの設置が一番の効果的な対策かもしれませんが、例年ですとお盆過ぎには秋風が感じられる北海道の学校に、果たして今年のような日が今後も続くのでしょうか。今年の九州は大雨に台風が、東北も大雨に見舞われた後の酷暑続きと、災害級の大雨と突風と酷暑が日本全国で発生していることを思うと、今までの経験則が通用しない状況なのかもしれませんが・・・

夏は暑い方が景気が良くなるという方もいらっしゃいましたが、電気代もガソリン代も食料品も高くなってしまった今、どれだけ景気に寄与するのかわかりませんね。

北海道の学校は夏・冬休みそれぞれに２５日の計５０日だったと思いますが、本州では８月一杯が夏休みとなっていたかと思いますので、建物も立派になり冬も暖かくなってきた北海道ですから、いっそ夏休みを長くし冬休みを短くすると言うのも、あまりお金をかけずにできる北海道の暑さ対策かもしれませんね。

もっとも、学校の長期休業の５０日に根拠が無く、慣例によるものであった記憶がありますので、夏休みの日数変更がそんなに大きな問題を引き起こすとも思えないので、今後検討の余地はあるのでは？？？

そのような状況の中、９月には久しぶりに観覧制限を設けない運動会を開催する事になりますが、職員の半数近くがコロナ禍以前の運動会を経験しておらず保護者の皆様も同様かと思いますが、暑さと長雨で思い通りの練習とは行きませんでしたが、新たな思いで秋の運動会をご家族皆様でお楽しみいただければと存じます。

先日の縁日も同様でしたが、コロナ禍の３年間で変わってしまった事や、やらない事が当然になった為に生じる不都合に気付かされることも有るだろうと思っています。

先日、私の地元商工会青年部が３５年間実施していた花火大会が、今年で最後と成ったと報道されていました。コロナ禍により中止や縮小したことで、支援してくれた人や手伝ってくれたスタッフが戻ってくる事がなかったと、実行委員会の代表が話されていましたが、かつての「日常」を再び手に入れる事はそれ程簡単な事ではないのですね。花火の光と音が寂しく感じる最後の花火大会となりました。

今年のこども園の行事も、コロナ禍の３年間を乗り越えての行事となります。大いに楽しみ、こども達の成長ぶりを感じ取って頂く機会になればと思います。